



# しもよねだ



No.1 2

学校の教育目標 かしく(よく考える子) あたたく(思いやりのある子) たくましく生きる子(強い体の子) 令和6年2月1日

学徳高き<津田左右吉博士>のふるさと下米田で、**健やかに育つ子ら!**

## 察して 動く

校長 佐藤 亜紀

朝、霜が降りた田んぼの小道を、白い息を吐きながら歩く子どもたち。2時間目が終わると暖かな日差しの下で、体全体を使って遊びに夢中になる子どもたち。沸き起こるエネルギーの豊かさは、私たち大人にとっても元気の源となります。

【1月の積雪で誕生した雪だるま】⇒



3学期の始業式で「思いを馳せる」話をし、「想像力を働かせる」ことをキーワードにして過ごしてきた学校生活も、早1か月が経ちました。2例を紹介します。

昼休みになると、校長室に遊びに来る子どもたちがいます。図書館で借りた本を、私に読み聞かせをしてくれたり、自由帳を持って校長室の机で絵を描いたりして、思い思いの時間を過ごしています。先日も、数名の子が遊びに来ました。ちょうどその直前に電話がかかってきたので、私はその対応をしていたところでした。その子どもたちは、電話で話している私の姿を廊下から見て、話が終わるまで静かに廊下で待っていてくれました。様子を察して心配りができる優しさに感謝です。

「下米田小学校の子どもたちって、素晴らしいですね。未来が明るいですね。」ある日の昼休み、来校されたお客様の言葉です。

初めて本校におみえになったそのお客様は、駐車場の場所が分からず、閉まっている東門の所で困って見えそうです。その時、昼休みで運動場に出ようとしていた2人の児童が、その方に気づき「どうしましたか?」と声を掛け、「駐車場はあちらです。」と言葉で案内をしたとのことでした。

すぐに各担任に状況を伝え、該当する子どもたちを探してもらいました。その子どもたちには、相手を思いやる親切な心に加え、門を隔てて会話をする確かな対応(知らない人と話をする時の対応として)を大いに褒め、お客様からお聞きした感謝の気持ちを伝えました。

どちらも「状況を察して動いた姿」だと思います。そして「相手のことを思って動いた姿」だと思います。状況をつかみ、自分には何が出来るか、そうすることで相手はどんな気持ちになるかを、子どもたちなりに瞬時に考え、判断し、自分で正しいと思った行動に移せたことに大きな拍手を送りました。

学年の発達段階においては、照れくさい、恥ずかしいという気持ちが表に出て、心の中では、「～しなきゃいけないな」と思っている、素直に行動に表せないという時期もあります。成長過程の子どもたちに「正しいと思うことをやることは、決して恥ずかしいことではないんだよ。」と声を掛ける職員もいます。

やがては広い社会に出ていく子どもたちが、人と関わり、よりよい人間関係を築く大人になっていくためにも、自分の周りの様子を「察する力」、そして「察したことから行動に移す力」を付けることができる場所の一つが学校であるような気がします。